

南小たば風通信 2018

平成30年8月17日(金) 第14号

北海道教育大学附属函館小学校教育研究大会 参加レポート

7月27日(金)に、北海道教育大学附属函館小学校教育研究大会に参加してきました。頂いてきた資料を回覧しますので、使えそうなものがありましたら どんどん活用してください。(回覧後は、研究部の棚のところに保管しておきます!)夏休み初日の暑い日ではありましたが、国語科の授業改善をはじめ、道徳の評価のことや外国語活動についても学びを深めることができ、有意義な研究会でした。参加させていただき、ありがとうございました。

◆研究主題 『主体的・対話的で深い学び』を保障する授業の具現化

～「学びの文脈」に基づいた各教科等の単元のデザイン～

8:45	9:10	9:20	10:05	10:15	11:00	11:10	12:20	13:30	15:30
開会式 研究説明	休憩	授業①	休憩	授業②	休憩	教科等別事後討議	昼食	教科等実践研修会	

【授業①：参観授業】

稲船先生⇒ 6年 国語科 「Book cafe - きつねの窓」

三 上⇒ 6年 外国語科 「What sport do you want to watch?」

【授業②：参観授業】

稲船先生⇒ 1年 道徳 「きまりをまもること」

三 上⇒ 3年 国語科 「モチモチの木 ～読書でたいわ!～」

【教科等別事後討議】 二人で国語科の事後討議に参加してきました。

【教科等実践研修会】

稲船先生⇒ 外国語科 外国語活動

◇新教材“Let's Try!” “We Can!” について考える ～実践例の紹介を通して～

三 上⇒ 特別の教科 道徳

◇ここが知りたい! 特別の教科道徳

教科書はどう使っている? 通知表にはどう書くの? ～みんなで語り合しましょう!～

モチモチの木～読書でたいわ！～3年生

☆言語活動「読書でたいわ（読んで・書いて・出てくる言葉を、たのしんで・いんようしながら・わかったことやかんがえたことを語り合おう！）」を位置づけた、ユニバーサルデザインの授業でした。

本単元の目標

「モチモチの木」やその他の物語を読み、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて想像するとともに、感じたことや考えたことを読書会を通して語り合いながら共有することができるようにする。

【単元デザイン】全12時間扱い

「モチモチの木」の学習で『読書でたいわ』を行うためのノウハウを身につけ、他の作品でも考えたことを交流し合ったり、紹介しあったりすることを通して読書の幅を広げる。

開始期（1時間）

- ・「モチモチの木」を読み感想を交流する。挿絵を並べ替えながら、物語の流れをつかむ。
- ・「読書でたいわ」のやり方を知り、学習の見通しをもつ。

展開期（8時間）

・第1回「読書でたいわ」教室

「中心人物はだれ？その人はどんな人??」

～登場人物の設定や描かれ方についてとらえ、性格や関係性について考える。～

・第2回「読書でたいわ」教室

「クライマックス場面はどこ？」

～豆太の心情がかわったところはどこなのかを場面の移り変わりと結びつけて考える。～

・第3回「読書でたいわ」教室

「じさまにとって勇気と優しさはどちらが大事なの??」

～作品の主題に迫り作者の伝えたかったことは何かを考える。～

まとめ期（3時間）

- ・モチモチの木で学習したことを活用し、グループごとに斉藤隆介さんの他のおはなしから選んだ作品を読み、考えたことを交流する。

【本時について】授業の流れ

- ① 前時の学習を振り返り、本時の見通しをもち、学習のめあてを把握する。
- ② 前時で行った、「読書でたいわ」で話し合ったことを、「たいわシート」を使いながら交流する。

※ワールドカフェ方式で交流：ホスト（説明係）は各班1人、それ以外がゲスト（訪問者）になります。ホストは席に残り、他の班から来たゲストに、前時に話し合ったことを伝えます。ゲストは、訪問した班のホストから話し合われた内容を聞き取り「たいわシート」に書き込み、自分の班に戻ってから報告します。

- ③ 交流の結果、クライマックス場面（豆太が大きく変わったと考えられる叙述）がどこのかを再度確認する。
- ④ クライマックスはどこなのか（豆太が大きく変わったのはどこか）について考えたことを全体交流する。

※フィッシュボウル方式で交流：良い対話を深めつつ、その内容を参加者全員で共有するための方法論。

- ⑤ 今日の学習を通して思ったことや考えたことをまとめ、次時の学習の見通しをもつ。

《④フィッシュボウルの場面》

8人の子どもが前に出て、自分の考えを順番に伝えました。時間が足りなくなってしまいやむなく続きは夏休み明けに・・・となりました。



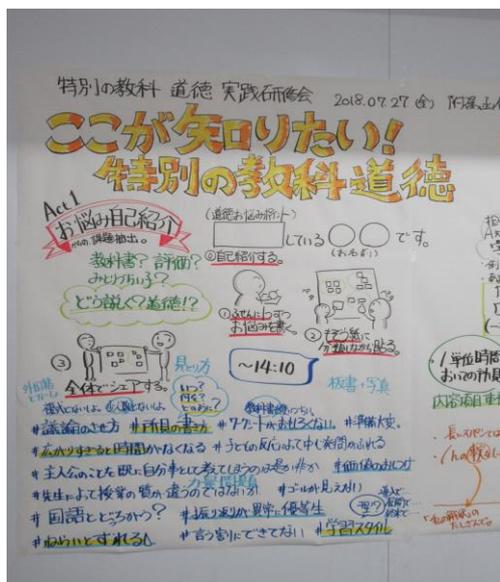
全員を授業に参加させるための工夫として、本文中のキーになることばの、間違え探しも……。子どもたちの表情からも、「わかる!」「できる!」「もっとやりたい!」感じが伝わってきました。言葉に着目するという点からも効果的に思いました。

【外国語科】6年生の授業（6時間扱い：5時間目の授業でした。）

「What sport do you want to watch?」

東京のオリンピック・パラリンピックで見たい競技について、その理由や競技の魅力等を含めて伝え合う授業でした。そのために必要な語句、表現、文の形について、ワークシートを活用しながら進められていました。教室の中も暑く・・・子ども達も大変そうでした。授業の終わりに、「夏休み中の宿題です!」と、ワークシートを手渡されました。「ええ!」と反応する子もいて、どこも同じだなあ・・・と思ってニンマリしてしまいました。

【特別の教科 道徳 教科等実践研修会に出席しました】



- 4～5人のグループに分かれて、①お悩み自己紹介!②悩みを共有しましょう!(個人⇒グループ活動)③グループごとに発表!④コメンテーターの皆様を交えて全体交流をしましょう!⑤コメンテーターの方々から という内容で進められました。

賢い子は、「これが道徳の答えでしょう!」というようなパーフェクトな答えを記述できるけれど、実際の生活場面ではそうでないことが・・・という実態があることも出されていました。実際の評価は、道徳の授業内で・・・ということでした。3学期制の学校では、すでに評価も始まったようです。主観でやるのは×いい答えを出したときに、それを記録しておくことが大切!(事実をしっかりと拾って書く)◆()の授業では、()の様子がみられ()ができている。のように穴埋め式の文例もあるのだそうです。※別紙の写真資料もご覧ください。